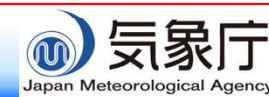


令和7年の実績

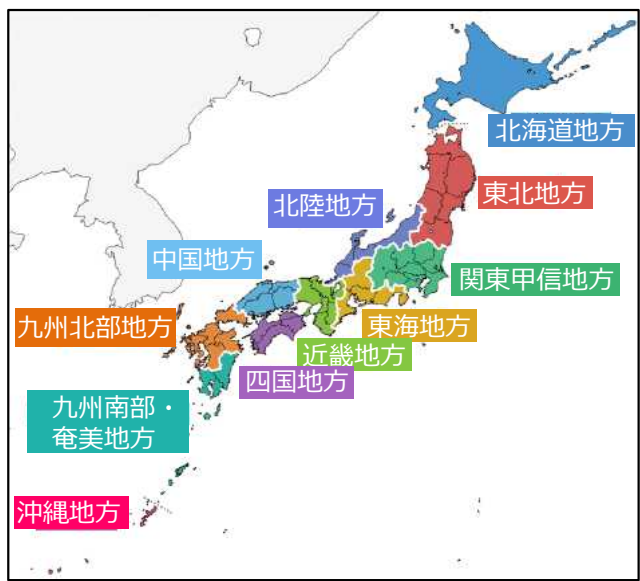
～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～



- 気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯の正確な予測は困難だが、予測技術の開発を進め、令和6年5月から府県単位での呼びかけを実施している。
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したとき、実際に大雨となる可能性が高いことから、**この呼びかけが行われたときには、ハザードマップや避難所・避難経路を確認するとともに、今後発表される防災気象情報や自治体からの避難情報に留意するなど、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。

実績表

線状降水帯の発生日※1	地方予報区	府県予報区※2	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値※3
6月9日	九州南部・奄美地方	鹿児島県 (奄美地方を除く)	線状降水帯が発生	呼びかけを実施	約120ミリ
6月10日	九州北部地方 (山口県を含む)	福岡県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
		佐賀県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		長崎県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約110ミリ
		大分県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
		熊本県	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ



地方予報区(全国を11ブロックに分けた地域)

※1 線状降水帯の発生がなかった場合は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの対象日。
※2 鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表。
※3 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準の1つである前3時間積算降水量の最大値が100mm以上を着色。なお、10～30分先に基準を満たすとして同情報を発表した場合、実際には前3時間降水量の積算値が100mmに達しないことがある。

九州南部・奄美地方 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが適中した事例。

線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表します。(令和5年5月25日以降)

- ① 前3時間積算降水量(5kmメッシュ)が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状(長軸・短軸比2.5以上)
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)において土砂災害警戒情報の基準を超過(かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上)又は洪水キキル(洪水警報の危険度分布)において警報基準を大きく超過した基準を超過